

日蓮大聖人御書全集

きょうおうどのごへんじ

経王殿御返事

新版
1632
ゝ
1633

きようおうどのごへんじ

経王殿御返事

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

しじようきんご

文永10年('73)

8月15日

52歳

(四条金吾)

ご

おん

音

信

聞

そうら

その後、御おとずれきかまほしく候いつるところに、わ

ひと

た

そうろう

なに

ちようほう

銭

ざと人をおくり給び候。また、何よりも重宝たるあし、

さんかい

たず

にちれん

み

とき

あ

たいせつ

そうろう

山海を尋ぬるとも、日蓮が身には時に当たりて大切に候。

きようおうごぜん

にろくじちゆう

にちがつてん

いの

それについて、経王御前のこと、二六時中に日月天に祈り

もう

そうろう

せんじつ

守

ざんじ

み

離

持

たま

申し候。先日 of まぼり、暫時も身をはなさずたもち給え。

ほんぞん

しようほう

ぞうほうにじ

なら

ひと

その本尊は、正法・像法二時には、習える人だにもなし、

書

あらわ

たてまつ

絶

ししおう

ぜんさんごいち

ましてかき顕し奉ることたえたり。師子王は、前三後一と

もう

蟻

こ と

猛

と

申して、ありの子を取らんとするにも、またたけきものを取

とき

勢

い

同

らんとする時も、いきおいを出だすことは、ただおなじきこ

にちれん

しゅご

ごほんぞん

認

まい

となり。日蓮、守護たるところの御本尊をしたため参らせ

そろう

ししおう

劣

きよう

い

しし

候ことも、師子王におとるべからず。経に云わく「師子

ふんじん

ちから

奮迅の力」とは、これなり。

まんだらよ

よ

しん

たも

また、この曼荼羅能く能く信ぜさせ給うべし。

なんみようほうれんげきよう

ししく

やまい

障

南無妙法蓮華経は師子吼のごとし、いかなる病さわりをな

きしもじん

じゅうらせつによ

ほけきよう

だいもく

たも

すべきや。鬼子母神・十羅刹女、法華経の題目を持つものを

しゅご

み

幸

あいぜん

ふく

守護すべしと見えたり。さいわいは愛染のごとく、福は

びしやもん

ところ

あそ

戯

毘沙門のごとくなるべし。いかなる処にて遊びたわぶると

恙

ゆぎよう

おそ

な

ししおう

も、つつがあるべからず。遊行して畏れ無きこと、師子王の

じゆうらせつによ

なか

こうだいにゆ

しゆご

深

ごとくなるべし。十羅刹女の中にも、皐諦女の守護ふかか

ごしんじん

剣

進

るべきなり。ただし御信心によるべし。つるぎなんども、すす

ひと

もち

ほけきよう

つるぎ

しんじん

まざる人のためには用いることなし。法華経の剣は、信心の

健 気

ひと

もち

おに

金

棒

けなげなる人こそ用いることなれ。鬼にかなぼうたるべし。

にちれん

魂

墨

染

流

そうろう

しん

日蓮がたましいをすみにそめながしてかきて候ぞ、信じさ

たま

ほとけ

みこころ

ほけきよう

にちれん

せ給え。仏の御意は法華経なり、日蓮がたましいは

なんみようほうれんげきよう

過

みようらくい

けんぽんおんじゆ

南無妙法蓮華経にすぎたるはなし。妙楽云わく「顕本遠寿を

いのち　しやく　たも
もつてその命となす」と釈し給う。

きようおうござん

禍

てん

さいわ

経王御前には、わざわいも転じて幸いとなるべし。

相　構

ごしんじん

い

ごほんぞん

きねん

たま

あいかまえて御信心を出だし、この御本尊に祈念せしめ給え。
なにごと　じゆうじゆ

がん

じゆうまん

しやうりよう

何事が成就せざるべき。「その願を充滿すること、清涼の

いけ

げんせあんのん

のち

ぜんしよ

しやう

うたが

池のごとし」「現世安穩にして、後に善処に生ぜん」、疑い

なからん。

もう

そうろう

とうごく

だいなん　許

そうら

また申し候。当国の大難ゆり候わば、いそぎいそぎ

かまくら

のぼ

げんざん

ほけきやう

くりき

おも

そうら

鎌倉へ上り、見参いたすべし。法華経の功力を思いやり候

ふろう　ふ　しもくぜん

なげ

ろめい

えば、不老不死目前にあり。ただ歎くところは露命ばかり

なり。てん天たすけ給えと強盛たまたに申し候。じようとくふじん浄徳夫人・竜女
あとの跡をつがせ給え。たま南無妙法蓮華經、なんみょうほうれんげきよう南無妙法蓮華經。なんみょうほうれんげきようあ
なかしこ、あなかしこ。

はちがつじゅうごにち

八月十五日

にちれん

日蓮

かおう

花押

きようおうごぜんごへんじ

經王御前御返事